

第3回富山市スマートシティ推進プラットフォーム  
運営委員会 議事要旨

日時：令和6年9月27日（金）13時

場所：富山国際会議場 205・206会議室

出席者

【富山市スマートシティ推進プラットフォーム 運営委員】

森本会長（座長）、堀田副会長、甲田委員、下山委員、笹尾委員、豊岡委員

【富山市】

政策監、企画管理部長、スマートシティ推進課長

欠席者

【富山市スマートシティ推進プラットフォーム 運営委員】

品川委員、田中委員

※当日欠席された委員については、事前にご意見を聴取し、本委員会の参考資料として配布。

会議次第・議事要旨

1 開会

2 政策監挨拶

3 議事

(1) 事務局説明

スマートシティ推進課 堀課長から、富山市スマートシティ推進プラットフォームの運営報告及び活動実績について説明。

(2) 意見交換

（豊岡委員）

PoC に関して3件採択されたということだが、応募数における採択数はどの程度か。

（事務局）

6件の応募があり、そのうち3件を採択した。

(豊岡委員)

外からPoCへの参加者を呼び込もうとしたときに、選定基準や不採択に至った理由をある程度開示できれば、それを見た事業者から応募していただける可能性も高められるだろう。

(甲田委員)

WGが7つ作られたということで、構成員を見ると大企業が多いが、スタートアップ企業も含めたWGにする予定はあるか。

(事務局)

リーダーは共創会員等となっているため、共創会員が多い形となっているが、実際には共創会員とスタートアップ会員とが組んで提案してきたものもある。スタートアップ会員、一般会員ともにWG組成のための事業提案自体は可能であるため、今後も提案があることを期待している。

(甲田委員)

オープンイノベーションを目指すのであれば、富山市の解決したい課題を具体的に示すものがあれば良い。現状、ワーキンググループの位置づけが不明瞭であり、スタートアップ企業の見解では自分がPoCに応募すべきかワーキンググループに応募すべきかが分からないと想定される。

また、大企業の持つリソースを明確化し、具体的に欲している技術を開示することでスタートアップ企業も自信を持って手を挙げることができ、インパクトのあるPoCやWG組成ができるのではないか思った。

(森本会長)

富山市版のスマートシティ推進にどのWGがどの程度寄与しているか等の進捗具合を測れば良いと思うがいかがか。

(事務局)

1年間やってきて、わかったこともある。今後に向けて検討していきたい。

(森本会長)

何を良くしたいのか、何を改善し、どのようなものを目指すのかを常に考えながら情報を開示することでオープンイノベーションに繋がると考える。

(笹尾委員)

オープンイノベーションは重要である。富山市がコンセプトを明確にしているのは良いが、オープンイノベーションの観点で、SCRTUM-Tが担う役割は個々

の活動がどのようなものなのかをオープンにすることであると考えている。現状、会員同士の交流機会の創出に注力している様であるが、SCRUM-Tの外に向けてのアクションも重要である。例えばSlackを一部外部向けにも公開し、どのような活動が行われているかを発信することが挙げられ、会員ではなくとも参加したい人が参加できるような仕組みづくりが必要である。

リビングラボに関して、どのような市民に声掛けをしているのかが気になる。外に発信していくという観点では、参加した市民の心境の変化や、参加企業がどのような情報を得て、どのようなものに活用したのかを外に見える形で報告していただきたい。

(事務局)

リビングラボに関して、マニュアルを作成し、企業と連携しながら行っており、住民については自治振興会等に声をかけている。いただいた指摘を参考にどのような形で見える化していくかを検討していく

(笹尾委員)

立ち上がったばかりで、リビングラボへの参加者を集めることも難しいと思われるが、一度参加いただいた方向けにその後の関連イベント等を発信できる仕組みづくりができれば良い。

(下山委員)

プラットフォーム外部への情報発信が行われていないのではないかと。本運営委員会についても活動に関する記録発信がなく、HP等にも記載がない。そのため対外的に運営委員会自体も存在意義が不明瞭である。外から見ると運営委員会がクローズドであるため、企業側から見れば本プラットフォーム自体の信頼性が欠けると思われてしまうのではないかと。公開する範囲の検討は難しいとは思いますが、例えば議事要旨は公開するなど、必要なものに関しては積極的に開示して良いのではないかと。オープンイノベーションの観点からも開示可能な情報に関しては開示を行い、より外部から本プラットフォームに集まる仕組みづくりが構築できれば良い。

(森本会長)

今まで運営委員会は非公開としていたが、まとまった意見に関しては少しずつ公開していくのが良いのではないかと。

(下山委員)

ワンストップ窓口に関して、現時点でのデータの提供依頼に関する状況をご教示いただきたい

(事務局)

現在データ提供依頼の実績はない。リビングラボの際や事業提案があった際

にも、市からデータ提供依頼の機能について頭出ししているが、実際のところ提供依頼はない。

(下山委員)

データ提供依頼ができる対象が共創会員のみとなっているところを広げても良いのではないか。また、ワンストップ窓口に関して、実際に申請フォームのほうに移動するとメールアドレスの登録等のやり取りが複数回あると見受けられるが、これは本当にワンストップであるかを再度ご確認いただきたい。スタートアップの立ち上げ期は時間が非常に貴重である。その中で複数のやり取りが発生することは問題点ではないか。

(事務局)

ワンストップ窓口で、事業提案があったものについてはどうしても日程調整等が発生することから、複数回のやり取りが発生せざるを得ない。ただ、提案があったものについては、関係所属が集合して提案をお伺いしていることから、利用者の時間短縮には繋がっているものと考えている。

(堀田副会長)

PoCの採択に関わったが、富山市へのメリットと実現可能性に関しては厳しく審査させていただいた。立ち上げたばかりではあるが、富山市が担う行政サービスの中で、領域ごとの提案数等を開示することが良い。市民のニーズとスタートアップ企業が望んでいる領域のマッチングを、市から情報を出して実施できるとよい。

(事務局)

富山市の課題感に関しては、オンラインのマッチングイベントなどで情報提供しており、今年度上半期は環境、病院、消防の各部署から課題とそれに対する取り組みを紹介し、事業提案に繋げるという取り組みを実施している。それ以外の場でも情報を出しながら提案いただけるよう努めたい。

(森本会長)

「富山市スマートシティ推進ビジョン ハンドブック」に「ありたいまちの姿（3つのまちづくりの目標）」「ありたい暮らし（9つの施策テーマ）」「取組の方向性（27の取組の方向性）」のマトリックスが掲載されているが、PoCやワーキンググループがどこに該当しているかが不明瞭である。採択された事業案はマトリックスのどの部分において評価され、採択されなかった事業案をどの部分が欠けていたのかを明確化し可能な限りで公開していくことが必要ではないか。

(事務局)

PoC の募集の中に、富山市スマートシティ推進ビジョンの何に該当する提案であるかは募集時に記載いただいている。一方で、本会議の資料の見せ方としては分かりづらかったかと思う。いただいた意見を基に視覚的に見やすい情報発信を進めていきたい。

また、HP も見やすくするよう検討していきたいと考えており、いただいた意見を基に情報発信に努めてまいりたい。

(豊岡委員)

外部発信に関連して、27の取り組みの方向性をハッシュタグ等を用いて発信を行うといった取り組みも良いのではないか。

リビングラボに参加された方にサポーターになっていただくという話があったが、参加者が実際に総会に来ていただくことでどのような形で反映されたかが見えるため、そのような仕組みづくりを構築することも良いのではないか。

(下山委員)

「富山市スマートシティ推進ビジョン ハンドブック」のマトリックスそれぞれに KPI を設定できれば、市だけではなく市民や企業にとっても一丸となって取り組む目標となるため良いと考える。今までの行政の在り方としては、自治体がビジョンを策定し、目標を達成できるかどうかを市民や企業が監視するような関係性であったが、これからは市民や企業も地域のプレーヤーとして責任を負いながらスマートシティを推進する関係性になれば良い。そのような仕組みは国内であまりなく、富山市はかなり先行しており、それができる地域なのではないかと感じている。実際、富山市のスマートシティは注目されているため、目標を地域で設定し、地域全員で達成することを打ち出すことができると良い

(森本会長)

議事録も含めて、前回の総会からどのようなことが達成されたのかを公開しながら引き続き進めていきたい。またハンドブックに記載のあるマトリックスは非常に良い。SDGs のように発信し続けることで浸透していくため、発信し続けることが重要である

以上

## 別紙

### 品川委員ご意見

- ・さらに多くの会員企業・団体にリビングラボを実施いただき、PoC や事業提案までたどり着いていただけることが望ましい。リビングラボの実績が 8 件のことだが、2 桁以上のリビングラボが立ち上がることを期待している。
- ・地域課題や市民ニーズが多岐に渡り、スマートシティに資するソリューションの見極めが難しい。現在は自由に様々な提案が提出されているが、ある程度市で地域課題や求めているソリューションを絞って提示することで、提案し易くなる事業者もいるのではないか。
- ・各社で情報共有可能な範囲に限りはあるだろうが、企業間においても情報共有の促進が進み、企業間、地域間のコラボレーションが生まれ、1 つでも 2 つでも実装に繋がるものが生まれると良い。そのためのコミュニケーションの場づくりや、富山市ならではの官民連携事業が実装されるように事務局が旗振り役となって進めてほしい。
- ・市が持つデータの利活用については、企業側からするとどのようなものを開示できるのか、なかなかイメージが湧かないのではないか。リビングラボの取組みも含めて、官民が気軽に意見交換できるような場があると、コミュニケーションの中で、どの様なデータを企業側が欲しており、どこまで市が提供できるかが整理できるのではないか。

### 田中委員ご意見

- ・会員企業数も順調に増加している。持続的に取り組み、仕組みを浸透させていくことが大切である。
- ・ワンストップ窓口からの事業提案について、スタートアップ企業や県外事業者からの事業提案がないように見えるが、県外企業は富山の課題を認識しづらいのではないかと考えられるので、地場企業が中心となっている共創会員などとのマッチングの場がもっとあれば、課題感を共有でき、事業提案の増に繋がるのではないか。
- ・今年度から実施の PoC について、どのような結果となるか楽しみである。事務局も協力し取り組んでほしい。また富山市のスマートシティが目指すものが少しわかりにくいと感じていたが、PoC やリビングラボで実例を生み出していくことが、解像度が上がっていくことにも繋がっていくと思われるため、スピード感をもって取り組んで頂ければと思う。